

日本産有剣膜翅類検索表

ギングチバチ亜科 (Crabroninae) ケラトリバチ 族 (Larrini) 及びヒメアナバチ族 (Miscophini) の種の検索表

寺山 守

ギングチバチ科 Crabronidae のギングチバチ亜科 Crabroninae には、日本ではギングチバチ族 Crabronini, ケラトリバチ族 Larrini, ヒメアナバチ族 Miscophini, トゲムネアナバチ族 Oxybelini 及びジガバチモドキ族 Trypoxylini の5族が認められる。これらの内、本報でケラトリバチ族とヒメアナバチ族を取り扱い、検索表と種の解説を提供する。

ケラトリバチ族には、ヌカダカバチ属 *Tachysphex*, ハヤバチ属 *Tachytes*, ケラトリバチ属 *Larra*, コオロギバチ属 *Liris* が所属し、ヒメアナバチ族には、コトガタバチ属 *Lyroda* とニテラバチ属 *Nitela* が所属する。

本検索表中の各種の分布は国内に限定したもので、下記の記号で生息地域を示した。

北：北海道，本：本州，四：四国，九：九州，対：対馬，種：種子島，屋：屋久島，琉：琉球列島（奄：トカラ・奄美諸島，沖：沖縄諸島，宮：宮古諸島，八：八重山諸島），伊：伊豆諸島，小：小笠原群島，火：火山列島。

ケラトリバチ属 *Larra*

中形の種で、後単眼は変形するか痕跡的で、額の上半分から頭頂部にかけて両眼に沿った隆起がある。大あご内縁に歯状突起をもたない。前伸腹節は中胸より長い。前翅亜縁室は3個。メスの腹部末端の背板の尾域 (pygidium) に点刻は少なく、光沢が強い。

本邦に3種が生息する。餌としてケラを狩るが、本属のメスは巣を作らない。獲物の麻酔は一時的で、産卵された後の獲物は、まもなく体を動かすようになる。

ケラトリバチ属の種の検索

1a. メスでは腹部のほぼ全体が赤色，オスでは腹部1，2節のほぼ全体と少なくとも3節の前方は赤褐色。

…… アカオビケラトリバチ *Larra (Larra) amplipennis* (F. Smith, 1873) 本，四，九，琉

- 1aa. 腹部は全体が黒色.
..... 2
- 2a. 後脚腿節は赤褐色
.....ルソケラトリバチ *Larra (Cratolarra) polita* (F. Smith, 1858) 八
- 2aa. 前脚脛節と脚付節（赤褐色から暗褐色）を除いて脚は黒色.
.....クロケラトリバチ *Larra (Cratolarra) carbonaria* (F. Smith, 1858) 北, 本, 四, 九, 対, 琉

コオロギバチ属 *Liris*

中形から小形の種。後単眼は変形するか痕跡的で、額の上半分から頭頂部にかけて両眼に沿った隆起がある。前伸腹節は中胸より長いとそれと同長。前翅亜縁室は3個。メスの腹部第6背板の尾域は普通、密に点刻され、光沢はない（例外がある）。

中形の種でケラトリバチ属 *Larra* の種に似るものがあるが、本属では大あご内縁の基部近くに齒状突起があり、前伸腹節の側面は深く点刻されず、光沢はない（ケラトリバチは光沢があるが、明瞭な点刻をもつ）。また、小形の種ではヌカダカバチ属 *Tachysphex* に類似するが、本属では、額の上半分から頭頂部にかけて、両眼にそって隆起があることと、前伸腹節が中胸よりも長いこと（分かり難い場合がある）で区別される。両眼に沿った隆起の有無を点検する事がより確実に容易な区分法と思われる。

日本から9種が知られており、南西諸島に種数が多い。コオロギ類を狩って、地中の既存孔等に運び込み、子の餌として貯える。

属名の *Liris* は、文法上の性として“女性名詞”とみなされて使用されて来たが、イタリアの Garigliano 川の古名であることが分かり、よって性は男性となる (Menke & Bohart, 1979)。そのため、日本で適用されていた種の学名の、種限定語の語尾が変化するものがある事に留意したい。山根 (1999) では正しい種の学名が使われている。

コオロギバチ属の種の検索

- 1a. 頭部、胸部は金色または褐色を帯びた金色の毛に覆われる（リュウキュウコオロギバチのオスは、金毛が短くやや色も淡いが、中胸側板の点刻が密で不規則）。
- 1b. 大形でメスの体長は17~24mm.
..... 2
- 1aa. 頭部の銀白毛を除いて体毛は目立たず、淡い黄色から白色。
- 1bb. 小形から中形種でメスの体長は普通 9~17mm.
..... 3
- 2a. 脚の大部分は黄褐色から赤褐色。
- 2b. 中胸側板の点刻は極微。
.....キンイロコオロギバチ *Liris aurulentus* (Fabricius, 1787) 琉, 火 (硫黄島)
- 2aa. 脚は黒褐色から黒色。
- 2bb. 中胸側板に明瞭な点刻があり、特にオスでは極めて密で不規則。

- リュウキュウコオロギバチ *Liris deplanatus* (Kohl, 1884) 本, 四, 九, 屋, 琉
 3a. 後脚腿節は赤褐色.
 モモアカコオロギバチ *Liris difficilis* Tsuneki, 1983 八
 3aa. 脚は全体が黒色.
 4
 4a. 顔面の毛は黄色味を帯びる. 体の微毛は褐色を帯びるため, 微毛によって形成される帯・斑
 紋等は目立たない.
 4b. 前伸腹節は強い真鍮色の光沢をもつ.
 4c. メスの体長は17mm以上.
 スルスミコオロギバチ *Liris surusumi* Tsuneki, 1966 八 (石垣島)
 4aa. 顔面には銀白毛をもつことが多く, また腹部には微毛による白帯がある (ヒメコオロギバチ
 では銀白毛や微白毛がやや目立たない).
 4bb. 前伸腹節は黒色で, 真鍮色の光沢はない.
 4cc. メスの体長は17mm以下.
 5
 5a. 中胸背板に規則的な点刻を密布する.
 6
 5aa. 中胸背板の点刻は微細で, 鮫肌状となる.
 7
 6a. 頭部と胸部の毛は短く疎ら (図3-1).
 6b. オスの頭盾前縁はほぼ直線状 (図3-4).
 6c. メスの中胸側板の点刻は深くて明瞭.
 ヒメコオロギバチ *Liris festinans* (F. Smith, 1858) 本, 四, 九, 対, 屋, 琉, 小
 6aa. 頭部と胸部の毛は長くて密.
 6bb. オスの頭盾前縁中央に弱い歯状突起が1つある (図3-5).
 6cc. メスの中胸側板の点刻は浅くて疎ら.
 キヌゲコオロギバチ *Liris albopilosus* Tsuneki, 1967 八 (西表島)
 7a. 小形の種: 体長はメスで9.5~11mm, オスで5mm前後.
 7b. オスの腹部末節の腹板 (亜生殖板: subgenital plate) の先端中央に切れ込みはない (図3-9).
 7c. メスの尾域には毛がほとんどなく光沢がある.
 イリオモテコオロギバチ *Liris iriomotensis* Tsuneki, 1972 八
 7aa. より大形: 体長はメスで11.5~16mm, オスで7~11mm.
 7bb. オスの腹部末節の腹板の先端中央に切れ込みがある.
 7cc. メスの尾域には毛が密生する.
 8
 8a. オスの腹部末節の腹板の切れ込みは広く深い (図3-10).
 8b. オスの前脚腿節下面の毛はごく短く目立たない (図3-2).
 8c. メスの頭盾前縁の光沢のある部分にはほとんど点刻がない (あっても疎ら).
 ナミコオロギバチ *Liris subtessellatus* (F. Smith, 1856) 本, 四, 九, 対, 屋, 琉, 小

- 8aa. オスの腹部末節の腹板の切れ込みは狭く浅い (図3-11).
- 8bb. オスの前脚腿節下面に長毛を密にもつ (図3-3).
- 8cc. メスの頭盾前縁の光沢のある部分は密に点刻される.
 タイワンコオロギバチ *Liris rohweri* (F. Williams, 1928) 沖, 八

ハヤバチ属 *Tachytes*

中形から大形の種. 後単眼は著しく変形し, まが玉状の形となる. 額の上半分から頭頂部にかけて両眼に沿った隆起はない. 前伸腹節は中胸よりも短い. 前翅亜縁室は3個.

日本に5種を産する. 土中に営巣し, バッタやキリギリスの仲間を狩る.

ハヤバチ属の種の検索

- 1a. 腹部第2, 第3節の後縁に1本ずつ, つまり腹部に2本 (第1節から第3節に1本ずつの計3本の場合もある) の銀白毛帯がある.
- 1b. 大形種で, 体長はメスで通常20mm 以上.
 オオハヤバチ *Tachytes sinensis* F. Smith, 1856 本, 四, 九, 対, 屋, 八
- 1aa. 腹部第1節から第4節の後縁に1本ずつ, つまり腹部に4本の銀白毛帯がある.
- 1bb. より小形で, 通常メスの体長は18mm 以下.
 2
- 2a. 脚の大部分は赤黄色.
- 2b. 前胸背板の中央付近に1対の金色から金白色の毛斑がある.
 ...アカアシハヤバチ *Tachytes modestus* F. Smith, 1856 本, 四, 九, 対, 屋, 八 (与那国島)
- 2aa. 脚の大部分は黒色.
- 2bb. 前胸背板の中央付近に1対の毛斑はない.
 3
- 3a. 頭頂部で複眼は離れており, 頭頂での両眼間の距離は触角第3節より長い (図6-1, 6-3).
- 3b. 脚付節も黒色 (先方に向かって若干褐色がかかる場合がある).
- 3c. オス交尾器の交尾鈎 (paramere) の先端部は太く短い (図6-13).
 ヒロズハヤバチ *Tachytes latifrons* Tsuneki, 1964 本, 四, 九
- 3aa. 頭頂部で複眼は近付いており, 頭頂での両眼間の距離は触角第3節より短い (図6-2, 6-4).
- 3bb. 脚付節も黒色 (先方に向かって若干褐色がかかる場合がある).
- 3cc. オス交尾器の交尾鈎の先端部は細く, かつ顕著な刺状突起を持つ (図6-14).
 ヒメハヤバチ *Tachytes fruticis* Tsuneki, 1964 本, 四, 九, 対
- 3aaa. 頭頂部で複眼は近付いており, 頭頂での両眼間の距離は触角第3節より短い.
- 3bbb. 脚付節 (特に第2節以降の各節の基部) は淡褐色.
- 3ccc. オス交尾器の交尾鈎の先端部は細く, 刺状突起はない (図6-15).
 ニッポンハヤバチ *Tachytes etruscus* (Rossi, 1790) 本, 九

ヌカダカバチ属 *Tachysphex*

後単眼は輪郭が不明瞭だが、大体楕円状となる。額の上半分から頭頂部にかけて両眼に沿った隆起はない。前伸腹節は中胸よりも短い。前翅亜縁室は3個。

ハヤバチ属 *Tachytes* とは後単眼の形（ハヤバチ属では著しく変形し、まが玉状の形となる）で区別される。コオロギバチ属 *Lirris* の小形の種に類似するが、額の上半分から頭頂部にかけての部分に、両眼にそった隆起はないことと、前伸腹節が中胸よりも短いこと（慣れないと分かり難い場合がある）で区別される。

本属は、バツタ目のバツタ科、キリギリス科、あるいはカマキリ目、ゴキブリ目を狩ることが知られている。

西表島からナンブヌカダカバチ *Tachysphex nambui* が記載されたが、後にチャンヌカダカバチ *Tachysphex changi* のメスと判断された (Tsuneki, 1983a)。よって、本属は日本に4種を産し、本土に1種、沖縄島に1種、八重山諸島に3種、小笠原諸島に1種が生息する。

ヌカダカバチ属の種の検索

- 1a. 前脚脛節にへら状の長い剛毛をもつ。
..... チチジマヌカダカバチ *Tachysphex morosus* (F. Smith, 1858) 小 (父島)
- 1aa. 前脚脛節にへら状の長い剛毛はない。
..... 2
- 2a. 脚の付節の第3節以降は褐色から黄褐色。
- 2b. オスの前脚付節各節の先端には、第3節より長い櫛歯状の刺をもつ (図6-6)。
..... タイワンヌカダカバチ *Tachysphex formosanus* Tsuneki, 1971 九 (鹿児島県), 八
- 2aa. 脚の付節は暗褐色から黒褐色。
- 2bb. オスの前脚付節各節片の末端には、第3節より長い刺はない (図6-5)。
..... 3
- 3a. メスの頭盾の前縁ははっきりと段差をもって落ち込み、その基方には横じわが、前半には大きな点刻がある。
- 3b. オスの頭盾はほぼ全面が均一に点刻される (図6-11)。
..... チャンヌカダカバチ *Tachysphex changi* Tsuneki, 1967 八
- 3aa. メスの頭盾は前縁が多少とも薄片状となり、その部分は点刻が少なくやや光沢がある。
- 3bb. オスの頭盾の前縁付近に無点刻部 (微細彫刻はある) がある (図6-8)。
..... ヤマトヌカダカバチ *Tachysphex nigricolor* (Dalla Torre, 1897)
北, 本, 四, 九, 対, 屋, 奄, 沖, 宮, 八, 小

コトガタバチ属 *Lyroda*

体長8~10mm程度のやや小形のハチ。前胸背はやや長く、中央に縦の隆起部分をもつことで他属と容易に区別される。前翅亜縁室は3個。単眼の変形はなく、3個とも円形で明瞭な輪郭をもつ。

日本に3種を産する。土中に営巣し、コオロギやヒシバツタを狩る。

コトガタバチ属の種の検索表

- 1a. 前伸腹節には背面と側面を仕切る隆起縁がある (図7-1).
- 1b. メスの頭盾前縁には8本の刺状突起がある (図7-2).
..... ヤマトコトガタバチ *Lyroda nigra* (Cameron, 1904) 本, 四, 九, 屋
- 1aa. 前伸腹節に背面と側面を仕切る隆起縁はない.
- 1bb. メスの頭盾前縁には10本の刺状突起がある (図7-3).
..... 2
- 2a. オスの亜生殖板の後縁は中央で大きく凹み, その凹みの中央部に小さな突起がある (図7-7).
- b. オスの頭盾前縁の両側は短い棘状に尖る (図7-4).
..... タイワンコトガタバチ *Lyroda venusta* Bingham, 1897 八
- 2aa. オスの亜生殖板の後縁はゆるやかな弧状となる (図7-8).
- bb. オスの頭盾前縁はほぼ直線状で, 棘状の突起はない (図7-5).
...フクイコトガタバチ *Lyroda fukuensis* Tsuneki, 1983 本 (福井県) [オスのみ知られる]

ヒメアナバチ属 *Nitela*

体長5mm以下の黒色で小形のハチ。前翅亜縁室は1つのみで、本族中の他属との区別は容易である。正面から見て、頭部両眼の内縁線は下方に向かって広がる。また、複眼に微毛をもつ。単眼の変形はなく、3個ともに明瞭な輪郭をもつ。

従来、本属には、*Nitela*, *Rhinonitela*, *Tenila* の3亜属が認められて来たが、本報では亜属を設定しない分類学上の見解を採用する。日本に3種が見られる。

ヒメアナバチ属の種の検索

- 1a. 額葉は幅広く、頭盾に向って伸長する。また、高く隆起し側縁は明瞭な綾となる (図7-11).
..... スジヒメアナバチ *Nitela domestica* (Williams, 1928) 本 (長野県)
- 1aa. 額葉は細い板状の構造をとる (図7-9, 7-10).
..... 2
- 2a. 頭部と中胸背面はさめ膚状の微細彫刻となり、点刻を欠く.
- 2b. 単眼は正三角形に配置する.
- 2c. 前伸腹節背板のしわはより密で、縦走するしわが多く見られる。
..... ヤスマツヒメアナバチ *Nitela yasumatsui* Tsuneki, 1956 本, 九
- 2aa. 頭部と中胸背板は微小点刻で点刻される.
- 2bb. 単眼は二等辺三角形に配置する.
- 2cc. 前伸腹節背面のしわは荒い網目状。
..... オオグシヒメアナバチ *Nitela ohgushii* Tsuneki, 1956 北, 本, 九

種の概説

ケラトリバチ属 *Larra*

クロケラトリバチ *Larra (Cratolarra) carbonaria* (F. Smith, 1858) [図1-3, 1-4, 1-7]

体長10~18mm. 全身が黒色で、メスの大あごと触角柄節は赤褐色、脚は黒色であるが、前脚脛節と脚付節は赤褐色。オスの前脚脛節は淡褐色。両複眼は頭頂付近でかなり近接する。前伸腹節は強く不規則に条刻される。

本種を含み本属の種は、巣を造らず、かつ獲物の麻酔も一時的となる。ケラ *Gryllotalpa orientalis* を狩る (Iwata & Tachihata, 1963; 岩田, 1971)。

分布：北海道，本州，四国，九州，対馬，琉球；朝鮮半島，台湾，フィリピン，マレーシア，インドネシア等。

ルソンケラトリバチ *Larra (Cratolarra) polita* (F. Smith, 1858) [図1-5, 1-8]

体長10~15mm. 体は黒色で後脚腿節は赤褐色。両複眼は頭頂付近でかなり近接する。

Larra luzonensis Rohwer, 1919の学名が用いられて来たが、ここでは *luzonensis* を種レベルで *polita* の同物異名とする見解を採用する。日本，台湾，フィリピンの個体群は亜種 *L. p. luzonensis* Rohwer, 1919と見なされている。

ケラを狩る。

分布：八重山；台湾，フィリピン，マレーシア，ニューギニア，ハワイ（人為的移入）。

アカオビケラトリバチ *Larra (Larra) amplipennis* (F. Smith, 1873) [図1-1, 1-2, 1-6]

体長12~18mm. 腹部の赤褐色が目立つ種で、頭部，胸部は黒色。メスの腹部はほぼ全体が赤褐色。オスでは腹部第1，2節と，第3節の基半部は赤褐色で，それ以外は黒色。両複眼の内縁は平行に近く，頭頂での複眼間は広い。

ケラを狩る。卵は，産卵後3~5日で孵り，幼虫期は約1週間程度。

フィリピンの個体群には亜種 *L. a. sanguinea* F. Williams, 1928の名が，タイの個体群には亜種 *L. a. aeripilosa* Tsuneki, 1963の名が与えられている。

分布：本州，四国，九州，琉球；台湾，中国，フィリピン，タイ。

コオロギバチ属 *Liris*

キヌゲコオロギバチ *Liris albopilosus* Tsuneki, 1967 [図3-5]

体長5~8mm. 黒色。中胸背板に規則的な点刻を密にそなえる。前伸腹節背面の彫刻は網目状となる。頭部と胸部の毛は長くて密。腹部には微毛による白帯がある。

ヒメコオロギバチに似るが，頭部と胸部の毛がより長く密であることで区別される。

従来使われて来た種限定語 *albopilosa* は *albopilosus* となる。

分布：八重山（西表島）；台湾，フィリピン，タイ。

キンイロコオロギバチ *Liris aurulentus* (Fabricius, 1787) [図2-2]

体長10~22mm. 頭部，胸部は金色または褐色気味の金色の毛におおわれる。中胸側板の点刻はご

く小さい。前伸腹節は弱く粗い横条をもつ。脚の大部分は黄褐色から赤褐色。

海岸近くによく見られ、砂質の土中に巣を作る。育房は地表から30~80cm程の場所にあり、長い坑道を作り、坑道は曲がりくねる。育房には2~4頭のコオロギを貯える。奄美大島ではコガタコオロギ *Valarifactous ornatus* を狩り（奥村，1971）、火山列島の硫黄島ではエンマコオロギの一種 *Teleogryllus sp.* を狩る（寺山，2004）ことが報じられている。成虫で冬を越す。

分布：琉球，火山列島（硫黄島）；台湾，中国，タイ，インドネシア，マレーシア，ニューギニア，インド，スリランカ，ハワイ，太平洋諸島。

リュウキュウコオロギバチ *Liris deplanatus* (Kohl, 1884) [図2-1]

メスの体長18~33mm，オスの体長13~20mm。黒色で，脚は黒褐色から黒色。メスでは，体に金色短毛の密生部が多く，腹部にも同色の3つの帯がある。前伸腹節背面は角形の網目状の表面彫刻をもつ。オスでは全体的に黒色味が強く，頭部と胸部の金色の体毛は淡く，短い。中胸側板の点刻は密で不規則。

土中に巣を作り，巣には1~2頭の育房が見られる。巣は深く作られ，育房は地表から地下30cm~1m位の場所に見られる（奥村，1971）。

日本の個体群は亜種 *L. d. binghami* Tsuneki, 1967とされ，日本から台湾，ボルネオ，インドにかけて広く分布する。

従来の種限定語 *deplanata* は *deplanatus* となる。

分布：本州，四国，九州，屋久島，琉球；台湾，東南アジア。

モモアカコオロギバチ *Liris difficilis* Tsuneki, 1983 [図2-3]

体長6~14mm。黒色で，後脚腿節が赤褐色であることで，他種とは容易に区別される。

分布：八重山；台湾，フィリピン，東南アジア，オーストラリア，南太平洋諸島。

ヒメコオロギバチ *Liris festinans* (F. Smith, 1858) [図2-7, 2-8, 3-1, 3-4]

体長6~10mm。黒色で銀白色の微毛をもつ。脚は黒色。頭部と胸部は密に点刻され，中胸背板に規則的な点刻が密に見られる。前伸腹節は細かい網目状の彫刻をもつ。頭部と胸部の毛は短く，疎ら。翅は透明。

成虫で越冬し，4月から10月頃まで営巣活動を行い，その間に数世代を経る。タンボコオロギ *Scapsipedus parvus* を狩ることが知られる（内藤，1963）。土中に営巣し，巣は浅く地表から2~15cm程度の場所に作られる。1つの巣には2~3頭の育房が見られ，1つの育房にコオロギの若虫を2~5頭入れる。最後の獲物を育房に入れると産卵し，巣を閉じる（羽田，1961）。

琉球と台湾に生息する基亜種 *L. f. festinans* (F. Smith, 1858)（ヒメコオロギバチ琉球亜種・ミナミコオロギバチ）と，奄美以北，小笠原，朝鮮半島，中国に分布する亜種 *L. f. japonicus* (Kohl, 1884)（ヒメコオロギバチ本土亜種・ヒメコオロギバチ）に区分されるが，奄美群島では両亜種が見られ，かつ中間型も採集されている。

山根他（1999）にオス個体の標本写真が掲載されている。

分布：本州，四国，九州，対馬，屋久島，琉球，小笠原；台湾，朝鮮半島，中国，フィリピン，タイ，ニューギニア，オーストラリア，ソロモン諸島。

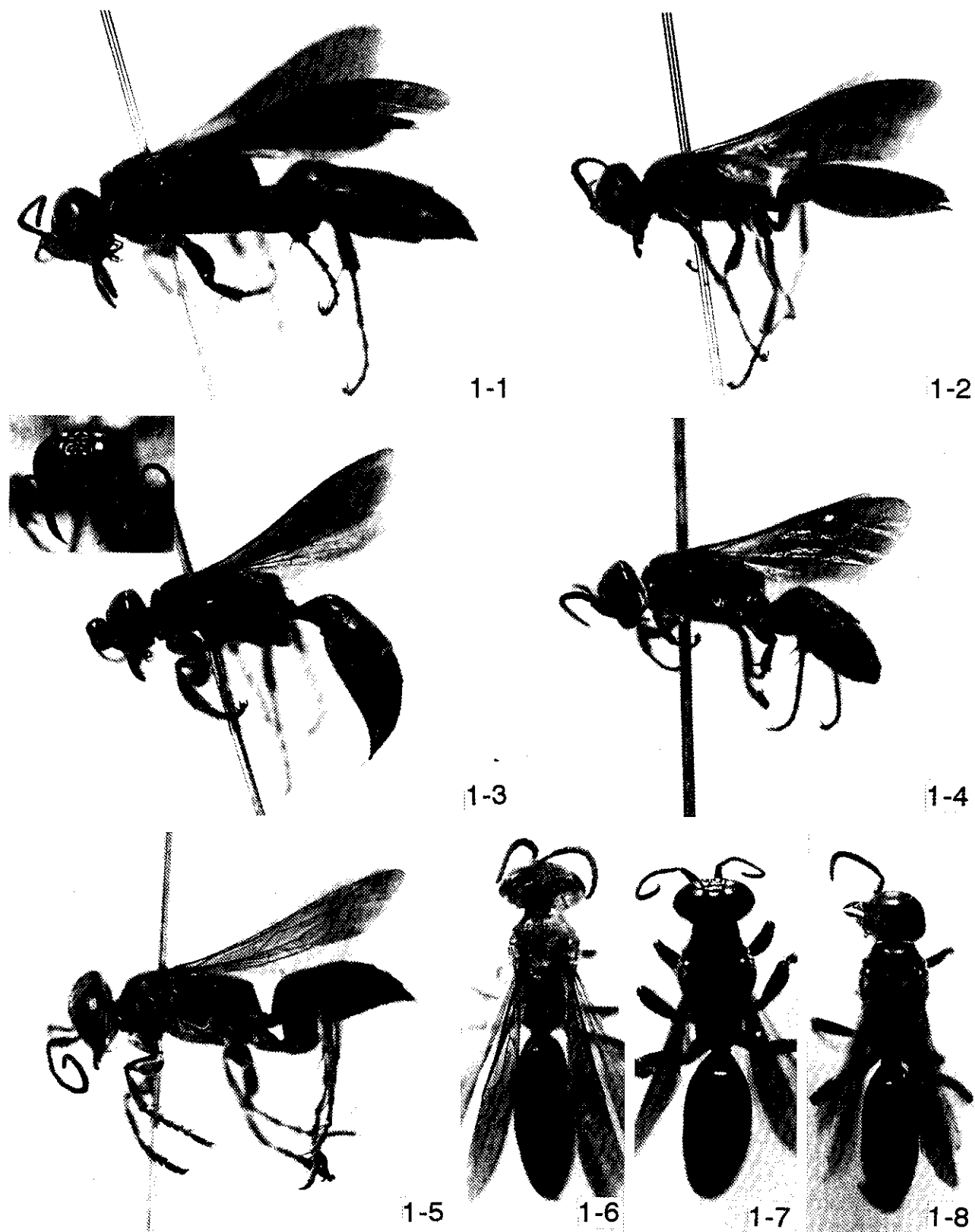


図1. ケラトリバチ属 *Larra*.

1-1, 1-2, 1-6, アカオビケラトリバチ *Larra (Larra) amplipennis* (F. Smith, 1873) (1-1, メス; 1-2, 1-6, オス); 1-3, 1-4, 1-7, クロケラトリバチ *Larra (Cratolarra) carbonaria* (F. Smith, 1858) (1-3, メス; 1-4, 1-7, オス); 1-5, 1-7, ルソンケラトリバチ *Larra (Cratolarra) polita* (F. Smith, 1858) (1-5, メス; 1-7, オス).

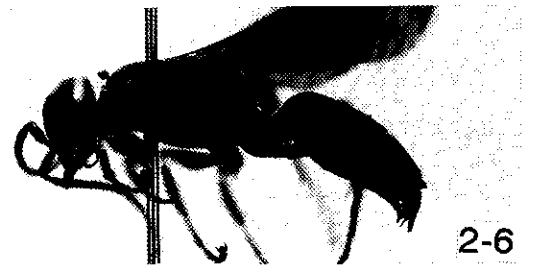
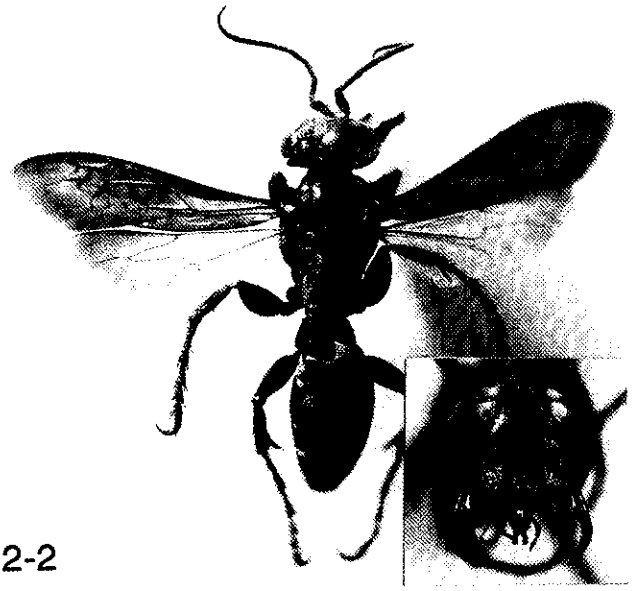
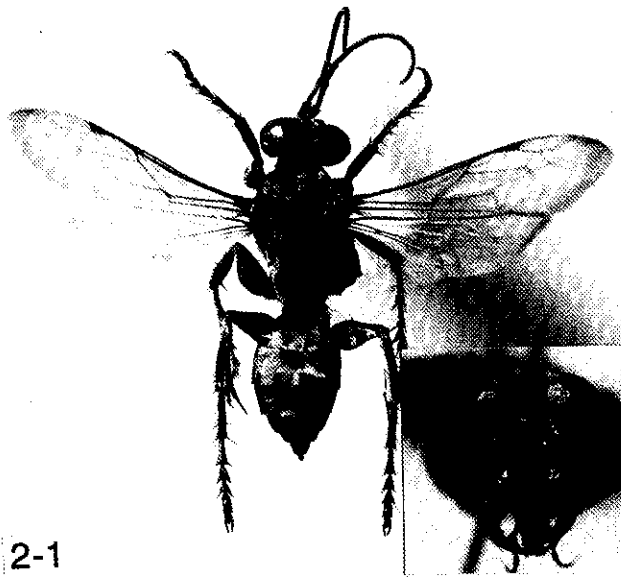


図2. コオロギバチ属 *Liris* (1).

2-1, リュウキュウコオロギバチ *Liris deplanatus* (Kohl, 1884), メス; 2-2, キンイロコオロギバチ *Liris aurulentus* (Fabricius, 1787), メス; 2-3, モモアカコオロギバチ *Liris difficilis* Tsuneki, 1983, メス; 2-4, 2-5, 2-9, ナミコオロギバチ *Liris subtessellatus* (F. Smith, 1856) (2-4, 2-5, メス; 2-9, オス); 2-6, タイワンコオロギバチ *Liris rohweri* (F. Williams, 1928), オス; 2-7, 2-8, ヒメコオロギバチ *Liris festinans* (F. Smith, 1858) (2-7, メス; 2-8, オス); 2-10, イリオモテコオロギバチ *Liris iriomotensis* Tsuneki, 1972, オス.

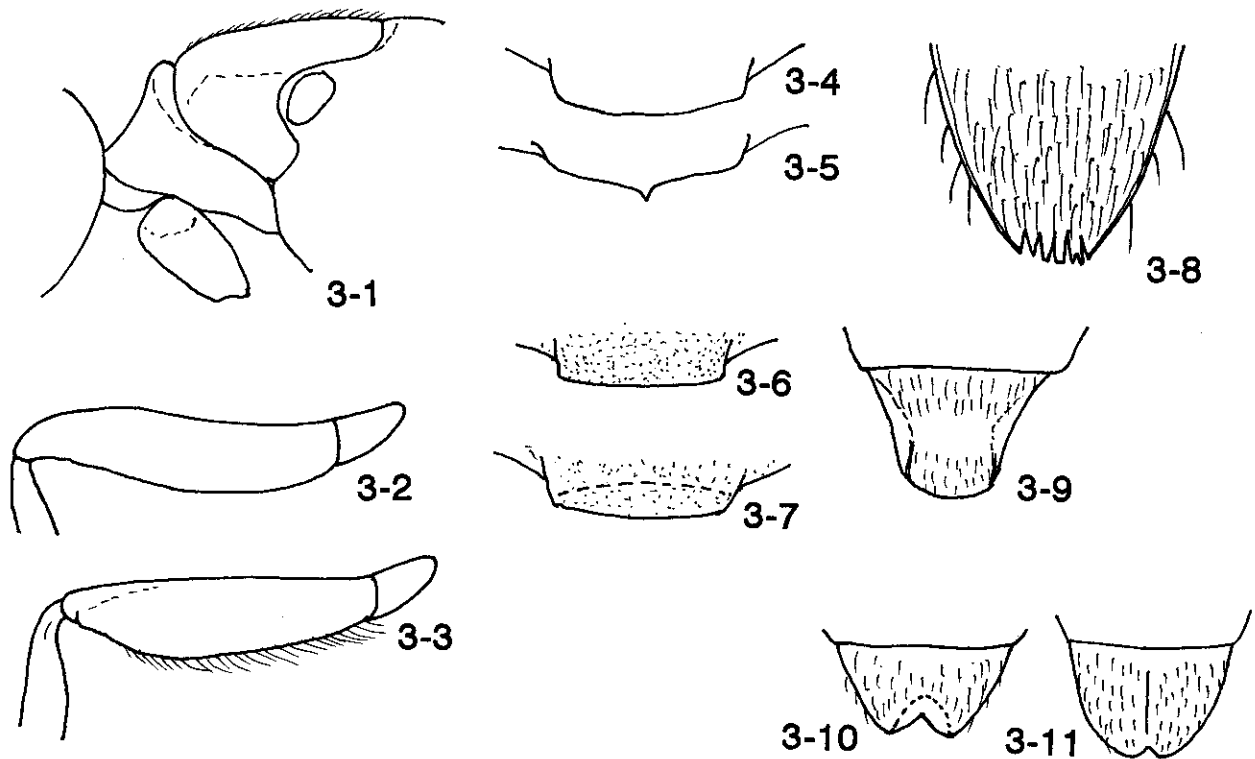


図3. コオロギバチ属 *Liris* (2).

3-1, 3-4, ヒメコオロギバチ *Liris festinans* (F. Smith, 1858) (3-1, 前胸, 中胸, メス; 3-4, 頭盾前縁, オス); 3-2, 3-6, 3-8, 3-10, ナミコオロギバチ *Liris subtessellatus* (F. Smith, 1856) (3-2, 前脚, オス; 3-6, 頭盾前縁, オス; 3-8, 腹部末節腹板 (亜生殖板), オス; 3-10, 腹部末節腹板 (尾域), メス); 3-3, 3-7, 3-11, タイワンコオロギバチ *Liris rohweri* (F. Williams, 1928), オス (3-3, 前脚; 3-7, 頭盾前縁; 3-11, 腹部末節腹板 (亜生殖板)); 3-5, キヌゲコオロギバチ *Liris albopilosus* Tsuneki, 1967, 頭盾前縁, オス; 3-9, イリオモテコオロギバチ *Liris iriomotensis* Tsuneki, 1972, オス.

イリオモテコオロギバチ *Liris iriomotensis* Tsuneki, 1972 [図2-10, 3-9]

小形の種で, 体長はメスで9.5~11mm, オスで5mm程度. 体色は黒色で脚も黒色. 腹部に微毛による白帯がある. 中胸背板の点刻は微細で, さめはだ状となる. メスの尾域に毛はほとんどなく, 光沢をもつ. オスの腹部末節腹板の後縁中央に切れ込みはない.

八重山諸島からのみ採集されており, 西表島, 小浜島, 波照間島から記録されている.

分布: 八重山.

タイワンコオロギバチ *Liris rohweri* (F. Williams, 1928) [図2-6, 3-3, 3-7, 3-11]

メスの体長11~16mm, オスで7~11mm. 黒色で脚も黒. 頭部と胸部の点刻は微細でつや消し状. 中胸背板の点刻は微細で, さめはだ状となる. 翅はかなり強く黒く曇る.

ナミコオロギバチ及びイリオモテコオロギバチに似るが, メスの尾域には毛が密生し, オスの亜生殖板の後縁中央に狭く浅い切れ込みがあることで区別される.

日本のものは亜種 *L. r. formosanus* Tsuneki, 1973とされる.

分布: 沖縄, 八重山; 台湾, フィリピン.

ナミコオロギバチ *Liris subtessellatus* (F. Smith, 1856) [図2-4, 2-5, 2-9, 3-2, 3-8, 3-10]

体長はメスで11~18mm, オスで7~13mm. 黒色で脚も黒. 頭部と胸部の点刻は微細で不明瞭. 中胸背板の点刻は微細で, さめはだ状となる. 前伸腹節には荒い横条が目立つ (ただし変異が大きい). 翅は明瞭に黄色味を帯びる. メスの尾域には毛が密生する.

タイワンコオロギバチ及びイリオモテコオロギバチに似るが, メスでは大形で, 尾域に毛が密生することでイリオモテコオロギバチと, 頭盾前縁の光沢のある部分がほとんど点刻を持たないことでタイワンコオロギバチと区別される. オスでは, 亜生殖板後縁の中央に, 広く深い切れ込みがあることで両種と区別される.

本州から沖縄にかけて広く基亜種 *L. s. subtessellatus* (F. Smith, 1856) が生息しており, 沖縄も含めて普通に見られるが, 小笠原諸島には亜種 *L. s. ogasawarae* Tsuneki, 1984 (ナミコオロギバチ小笠原亜種・オガサワラコオロギバチ) が見られる. 本亜種の基準標本の写真が Hashimoto & Nakanishi (1997) にあり参照可能である. また, 山根他 (1999) には琉球産の個体の標本写真が掲載されている.

分布: 本州, 四国, 九州, 対馬, 屋久島, 琉球, 小笠原; 台湾, 中国, フィリピン, インドネシア, 北インド, イラク, アフガニスタン, ハワイ, 太平洋諸島.

スルスミコオロギバチ *Liris surusumi* Tsuneki, 1966

メスはやや大型で体長17~20mm, オスは小形で体長7mm程度. 黒色で脚は黒色. 頭部の顔面の毛は黄色味を帯び, 胸部, 腹部の微毛は褐色を帯びる. 腹部には微毛による明瞭な帯や斑紋は認められない. 前伸腹節は真鍮色の強い光沢をもつ. メスの尾域の先端に7, 8歯をもつ.

日本では, 八重山諸島の石垣島からのみ得られている.

分布: 八重山 (石垣島); 台湾, 中国.

ハヤバチ属 *Tachytes*

ヒメハヤバチ *Tachytes fruticis* Tsuneki, 1964 [図4-2, 6-2, 6-4, 6-14]

体長10~13mm. 頭部と胸部は乳白色の毛を密生する. 腹部は黒色で, 4本の銀白毛帯をもつ. 脚は付節を含めて黒色. 頭部の頭頂での両眼間の距離は狭く, 触角第3節の長さよりも短い. オスの交尾鉤 (paramere) の先端部は細長く, 上方を向く刺状の突起を持つ.

分布: 本州, 四国, 九州, 対馬; 朝鮮半島, 台湾.

ヒロズハヤバチ *Tachytes latifrons* Tsuneki, 1964 [図4-4, 6-1, 6-3, 6-13]

体長10~16mm. 黒色で, 頭部と胸部に白色の毛を持つ. 腹部には4本の銀白毛帯をもつ. 脚は付節を含めて黒色. ヒメハヤバチに似るが, 頭部はより幅広く, 頭頂での両眼間の距離は触角第3節の長さよりも長い. オスの交尾鉤の先端部は太く短い. また, 下面に多くの立毛を生やす.

分布: 本州, 四国, 九州; 朝鮮半島 (?), ロシア.

アカアシハヤバチ *Tachytes modestus* F. Smith, 1856 [図4-5, 6-16]

体長11~15mm. 頭部と胸部は金色の短毛を密生させ, 前胸背板の中央部には1対の金色から金白色の毛斑が見られる. 腹部には4本の銀白毛帯がある. 脚の基節, 転節及び腿節の基半は黒色で,

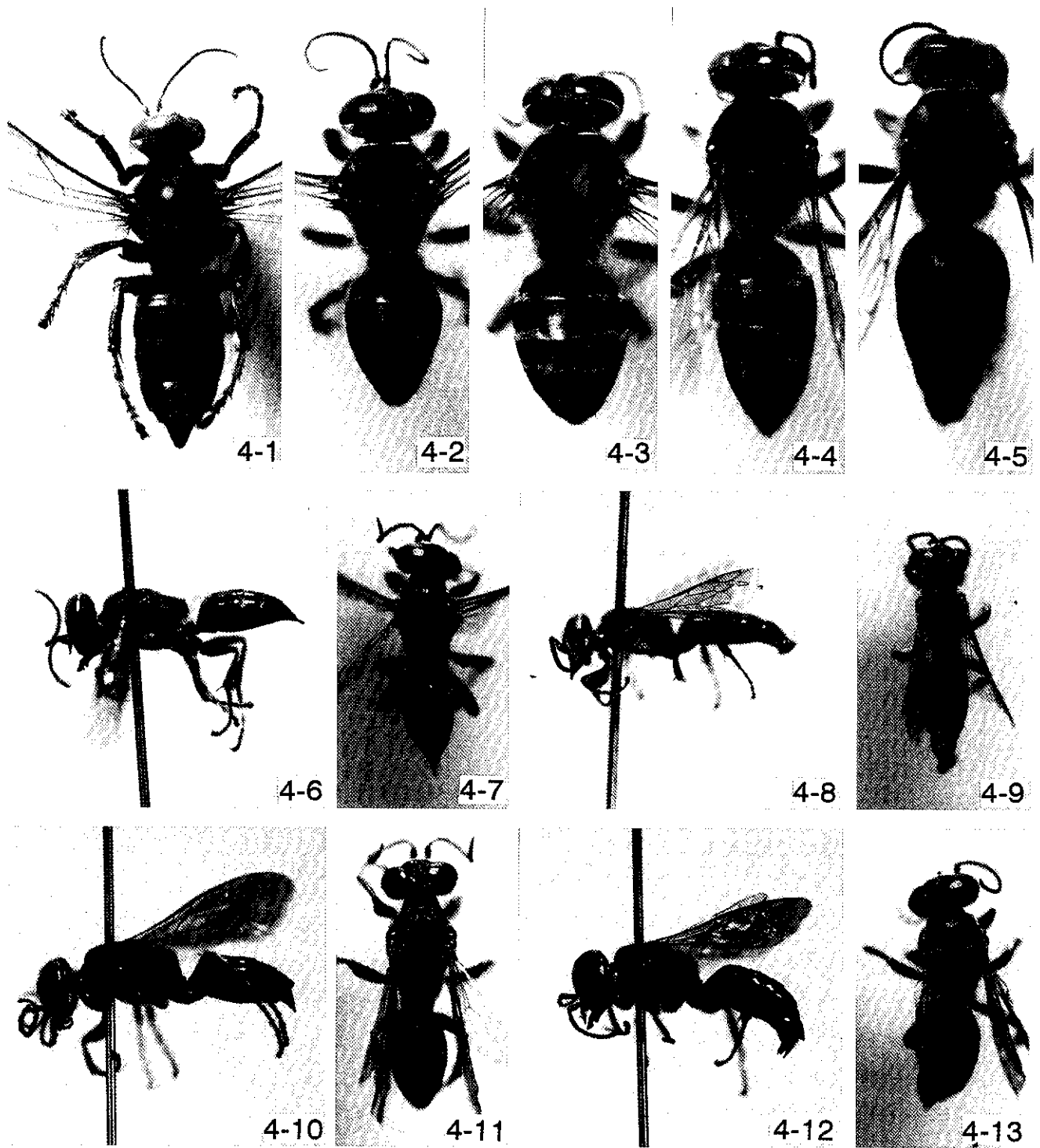


図4. ハヤバチ属 *Tachytes* 及びヌカダカバチ属 *Tachysphex* (1).

4-1, オオハヤバチ *Tachytes sinensis* F. Smith, 1856, メス; 4-2, ヒメハヤバチ *Tachytes fruticis* Tsuneki, 1964, メス; 4-3, ニッポンハヤバチ *Tachytes etruscus* (Rossi, 1790), メス; 4-4, ヒロズハヤバチ *Tachytes latifrons* Tsuneki, 1964, メス; 4-5, アカアシハヤバチ *Tachytes modestus* F. Smith, 1856, メス.

4-6~4-9, タイワヌカダカバチ *Tachysphex formosanus* Tsuneki, 1971 (4-6, 4-7, メス; 4-8, 4-9, オス); 4-10, 4-11, ヤマトヌカダカバチ *Tachysphex nigricolor* (Dalla Torre, 1897), メス; 4-12- 4-13, チャンヌカダカバチ *Tachysphex changi* Tsuneki, 1967, オス.

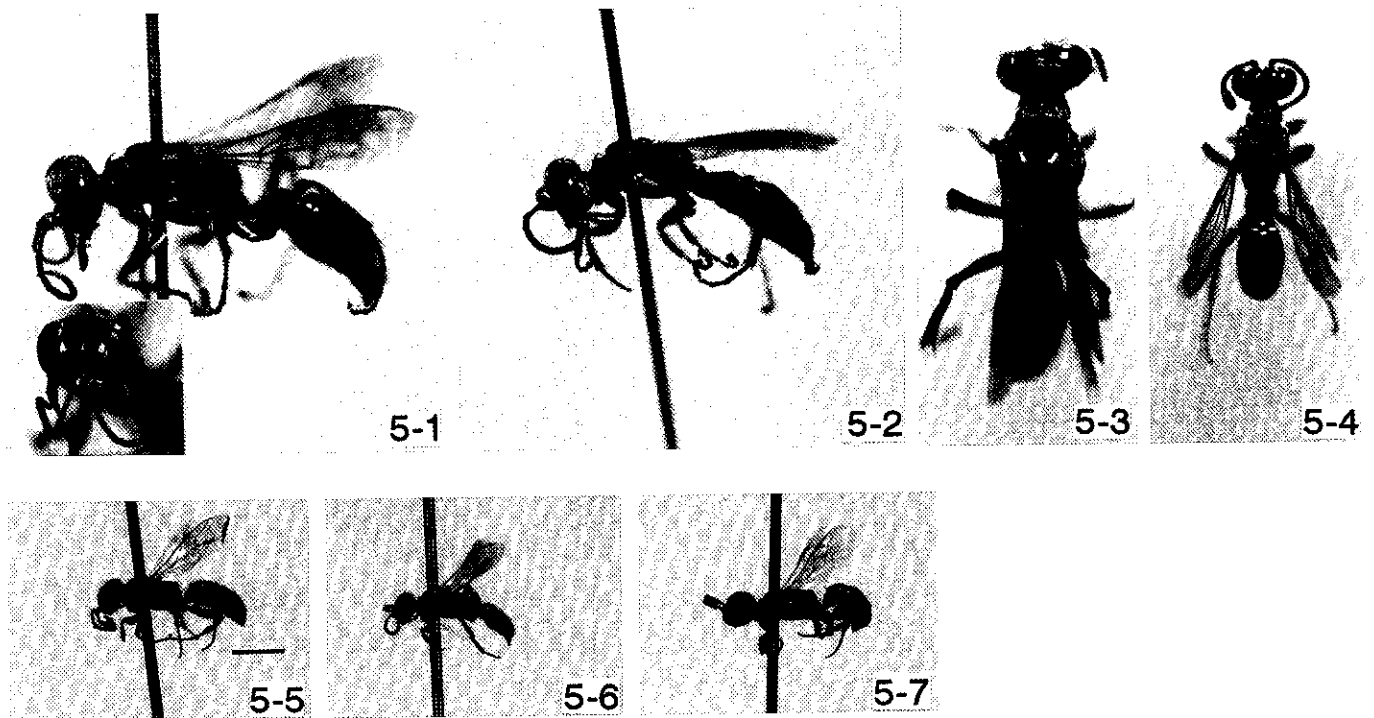


図5. コトガタバチ属 *Lyroda* 及びヒメアナバチ属 *Nitela* (1).

5-1~5-4, ヤマトコトガタバチ *Lyroda nigra* (Cameron, 1904) (5-1, 5-3, メス; 5-2, 5-4, オス).

5-5, 5-6, ヤスマツヒメアナバチ *Nitela yasumatsui* Tsuneki, 1956 (5-5, メス, バーの長さは1mm (図5-6, 5-7も同一スケール)); 5-7, オオグシヒメアナバチ *Nitela ohgushii* Tsuneki, 1956, メス.

残りの部分は赤黄色.

分布: 本州, 四国, 九州, 対馬, 屋久島, 八重山 (与那国島); 朝鮮, 台湾, 中国, マレーシア, ジャワ, タイ, インド.

ニッポンハヤバチ *Tachytes etruscus* (Rossi, 1790) [図4-3, 6-15]

体長12~18mm. 頭部と胸部は黄褐色の毛でおおわれる. 腹部に4本の銀白毛帯がある. 脚の基節から脛節までは黒色で, 付節は淡褐色で特に各節の基部が淡色となる. オスの交尾鉤の先端部は細長い. また, 挿入器 (aedeagus) は端指 (digitus) よりも短い.

日本の個体群は亜種 *T. e. sibiricus* Gussakovskij, 1933とされている.

分布: 本州, 九州; 朝鮮半島, 中国, シンガポール, 極東ロシア, 東アジア, 中央アジアからヨーロッパに広く分布.

オオハヤバチ *Tachytes sinensis* F. Smith, 1856 [図4-1, 6-12]

体長18~23mm の大形のハチ. 頭部に黄金色の毛を, 胸部には褐黄色の毛をそなえる. 腹部の第2, 第3背板の後縁に銀白毛帯があり, よって腹部に2本の銀白毛帯をもつ. 個体によっては第1節にも毛帯があり, 3本の銀白毛帯をもつ. 脚は褐色から黒色で地理的な変異を示す. 翅は黄色味が強い.

本州から屋久島までの個体は基亜種 *T. s. sinensis* F. Smith, 1856 (オオハヤバチ本土亜種・オオハヤバチ) とされ, 八重山及び台湾のものは亜種 *T. s. yaeyamanus* Tsuneki, 1972 (オオハヤバチ

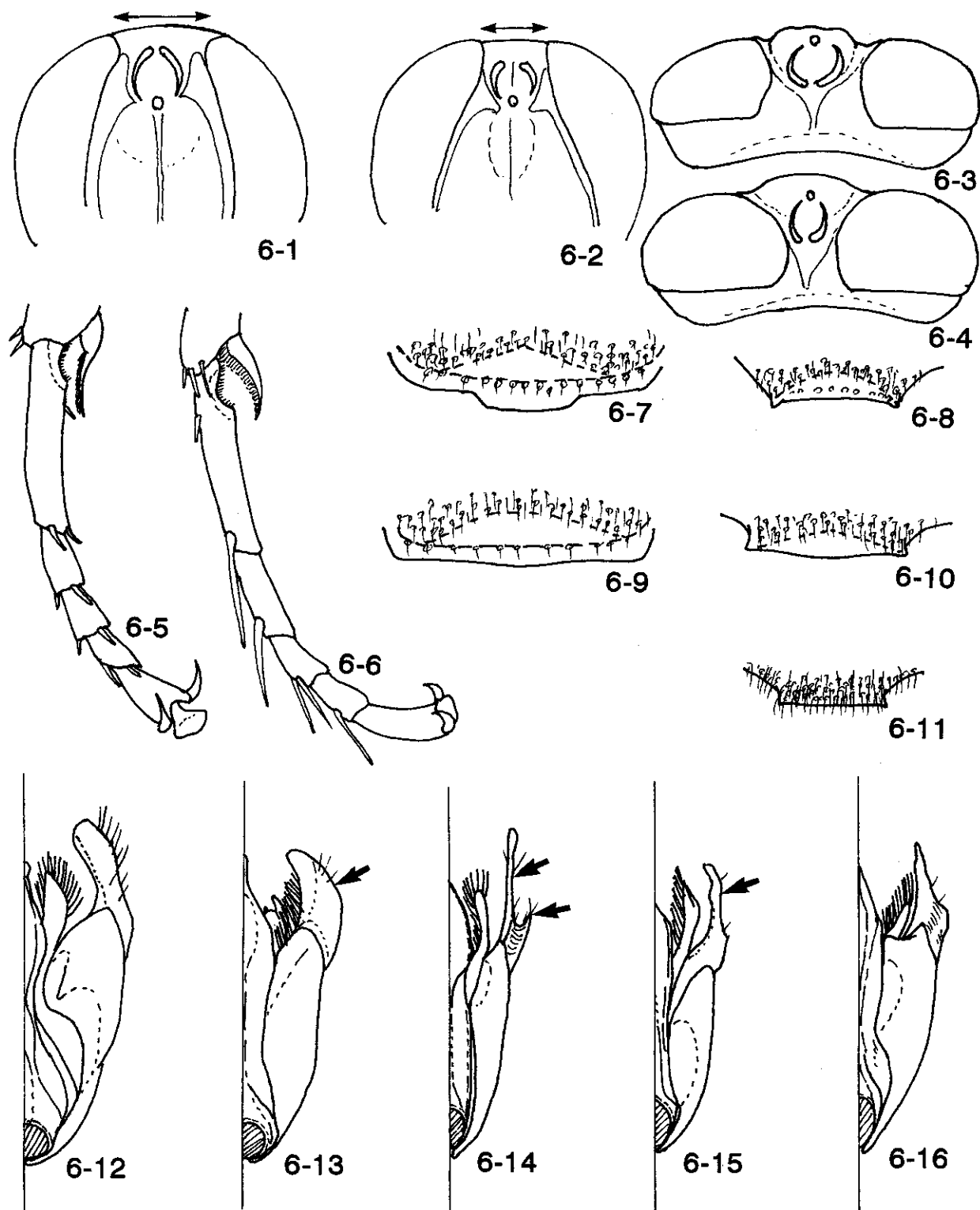


図6. ハヤバチ属 *Tachytes* 及びヌカダカバチ属 *Tachysphex* (2).

6-1, 6-3, 6-13, ヒロズハヤバチ *Tachytes latifrons* Tsuneki, 1964 (6-1, 頭部, 前面, メス; 6-3, 頭部, 背面, メス; 6-13, 交尾器, オス); 6-2, 6-4, 6-14, ヒメハヤバチ *Tachytes fruticis* Tsuneki, 1964 (6-2, 頭部, 前面, メス; 6-4, 頭部, 背面, メス; 6-14, 交尾器, オス); 6-12, オオハヤバチ *Tachytes sinensis* F. Smith, 1856, 交尾器, オス; 6-15, ニッポンハヤバチ *Tachytes etruscus* (Rossi, 1790), 交尾器, オス; 6-16, アカアシハヤバチ *Tachytes modestus* F. Smith, 1856, 交尾器, オス.

6-5, 6-7, 6-8, ヤマトヌカダカバチ *Tachysphex nigricolor* (Dalla Torre, 1897), (6-5, 前脚, オス; 6-7, 頭盾前縁, メス; 6-8, 頭盾前縁, オス); 6-6, 6-9, 6-10, タイワンヌカダカバチ *Tachysphex formosanus* Tsuneki, 1971 (6-6, 前脚, オス; 6-9, 頭盾前縁, メス; 6-10, 頭盾前縁, オス); 6-11, チャンヌカダカバチ *Tachysphex changi* Tsuneki, 1967, 頭盾前縁, オス.

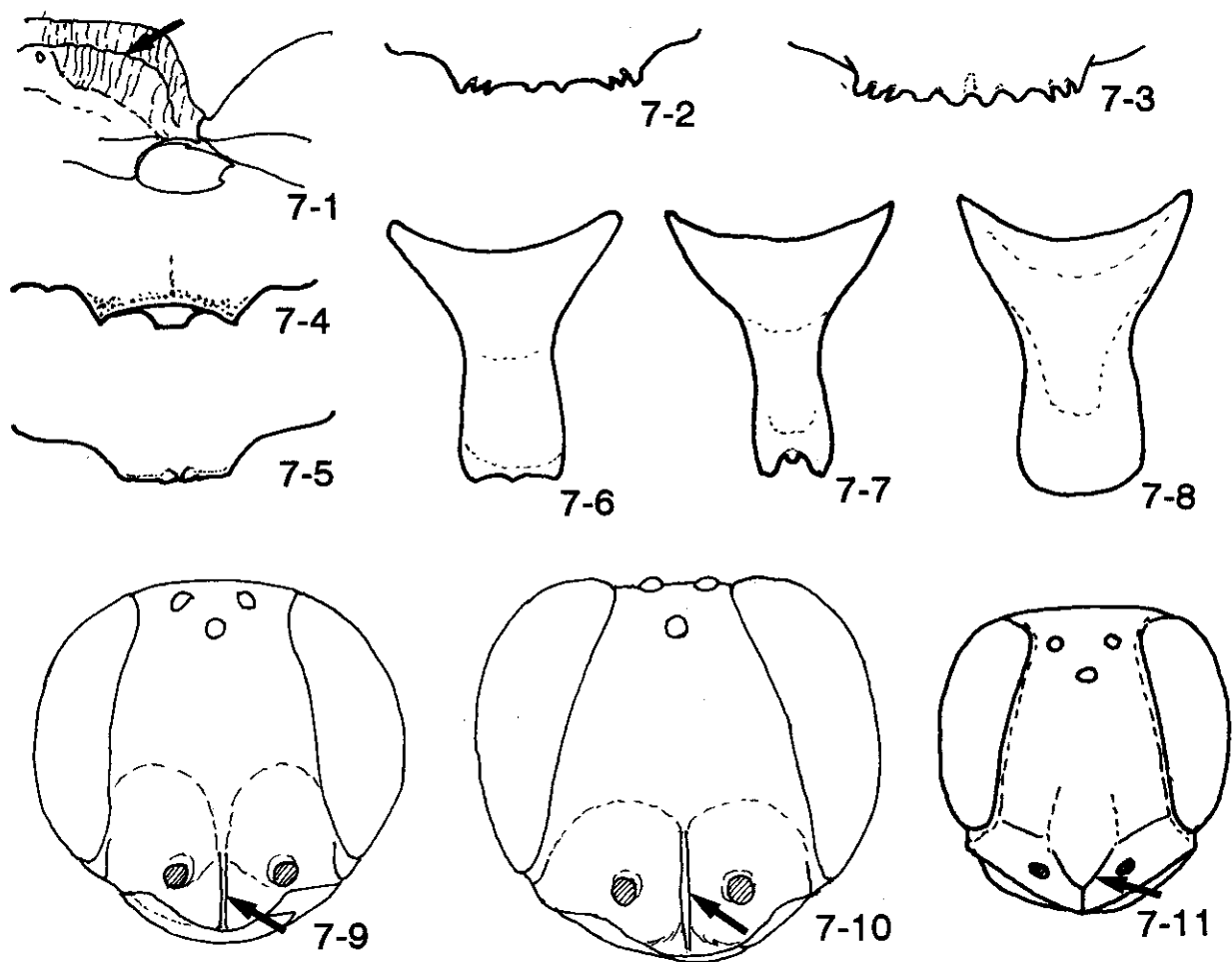


図7. コトガタバチ属 *Lyroda* 及びヒメアナバチ属 *Nitela* (2).

7-1, 7-2, 7-6, ヤマトコトガタバチ *Lyroda nigra* (Cameron, 1904) (7-1, 前伸腹節, 側面, メス; 7-2, 頭盾前縁, メス; 7-6, 亜生殖板, オス); 7-3, 7-4, 7-7, タイワンコトガタバチ *Lyroda venusta* Bingham, 1897 (7-3, 頭盾前縁, メス; 7-4, 頭盾前縁, オス; 7-7, 亜生殖板, オス); 7-5, 7-8, フクイコトガタバチ *Lyroda fukuiensis* Tsuneki, 1983 (7-5, 頭盾前縁, オス; 7-8, 亜生殖板, オス). (7-3~7-8, Tsuneki, 1993b を参照).

7-9, オオグシヒメアナバチ *Nitela ohgushii* Tsuneki, 1956, 頭部, メス; 7-10, ヤスマツヒメアナバチ *Nitela yasumatsui* Tsuneki, 1956, 頭部, メス; 7-11, スジヒメアナバチ *Nitela domestica* (F. Williams, 1928), 頭部, メス(常木, 1969, を参照).

八重山亜種・ヤエヤマハヤバチ) とされる。奄美群島および沖縄島からの記録はない。基亜種は触角が黒褐色から黒色で、脚の大部分が黒褐色から黒色であるのに対して、八重山亜種では触角柄節が褐色、脚は基節と転節は黒褐色で他は褐色であることで区別される。

分布：本州，四国，九州，対馬，屋久島，八重山；台湾，朝鮮半島，中国，タイ，インド。

ヌカダカバチ属 *Tachysphex*

チャンヌカダカバチ *Tachysphex changi* Tsuneki, 1967 [図4-12, 4-13, 6-11]

体長7~9mm. 黒色. 脚は黒色で付節は暗褐色から黒褐色. メスの頭盾の前縁付近は明瞭に段差が

あり、下段（より先端）の部分は横じわと比較的大きい点刻がある。前縁の中央部は弱くへこむ。オスの頭盾はほぼ全面で均一に点刻される。

分布：八重山；台湾，スリランカ。

タイワンヌカダカバチ *Tachysphex formosanus* Tsuneki, 1971 [図4-6~4-9, 6-6, 6-9, 6-10]

体長4.5~9.5mm. 体は黒色で，脚付節の第3節以降は黄褐色。オスの前脚付節の各節の先端には第3節よりも長い刺を持つことで，同属の他種と区別される。メスでは，頭頂の中央後方に明瞭な縦溝が認められる。

八重山諸島から台湾に生息し，鹿児島県吹上浜からも記録されている（鹿児島県レッドデータブック，2003）。

分布：九州（鹿児島県），八重山；台湾。

ヤマトヌカダカバチ *Tachysphex nigricolor* (Dalla Torre, 1897) [図4-10, 4-11, 6-5, 6-7, 6-8]

体長はメスで10~12mm，オスで7-10mm. 黒色で，脚付節は暗褐色から黒褐色。腹部に3本の銀白色帯を持つ。メスの頭盾前縁にはやや光沢のある狭い縁があり，さらにその上方に点刻の少ない横長の三角域がある。オスの頭盾は，前縁付近に無点刻部がある。

砂地に営巣し，巣当たり5個ほどの育房を作る。直翅目バッタ科の昆虫を狩り，幼虫の餌とする。

北海道から沖縄にかけて生息する基亜種 *T. n. nigricolor* (Dalla Torre, 1897)（ヤマトヌカダカバチ本土亜種・ヤマトヌカダカバチ）に対して，宮古・八重山諸島の個体群は額の点刻がより微細となり，亜種 *T. n. yaeyamanus* Tsuneki, 1971（ヤマトヌカダカバチ宮古八重山亜種・ヤエヤマヌカダカバチ）とされる。

分布：北，本，四，九，対，屋，奄，沖，宮，八，小笠原（母島）；朝鮮半島，台湾，中国，ロシア（沿海州，千島列島）。

チチジマヌカダカバチ *Tachysphex morosus* (F. Smith, 1858)

体長5~7mm程度。黒色。雌雄ともに前脚脛節にへら状の長い剛毛を持つことで，日本産の他種と容易に区別される。前伸腹節側面に明瞭な横じわをもつ。メスでは頭盾前縁に小歯をそなえるが，オスでは前縁は水平，あるいは広く葉状に突出し，中央に切れ込みがある。

日本では小笠原諸島の父島からのみ得られており，*Tachysphex tinctipennis* Cameron, 1904の亜種 *T. t. titidzimaensis* Tsuneki, 1984として記載されたが，今日 *T. tinctipennis* は東南アジアに広く分布する *T. morosus* の同物異名として処理されている。

分布：小笠原（父島）；台湾，フィリピン，タイ，インドネシア，ミャンマー，スリランカ，インド，ハワイ，マリアナ諸島，カロリン諸島。

コトガタバチ属 *Lyroda*

フクイコトガタバチ *Lyroda fukuensis* Tsuneki, 1983 [図7-5, 7-8]

オスの体長9.5mm. 黒色で，大あごは黄褐色。頭盾前縁はほぼ直線状，中央部でわずかに2つの小さく弱い葉状の突起をもつ。ヤマトコトガタバチとは，前伸腹節の側縁に隆起縁を欠くことで容易に区別される。また，タイワンコトガタバチとは，オスにおいて，亜生殖板（subgenital plate）の

後縁はゆるやかな弧状で、丸みを帯びることと、頭盾前縁の両側縁は直線状で、刺状の小突起はないことで区別される。

メスは未知。これまでのところ、1個体のオスのみが得られている。基準標本の写真が Hashimoto & Nakanishi (1997) 中にある。

分布：本州（福井）。

ヤマトコトガタバチ *Lyroda nigra* (Cameron, 1904) [図5-1～5-4, 7-1, 7-2, 7-6]

体長7～12mm。黒色。頭部、前胸背面、中胸背面に真鍮色の短毛を密生する。腹部第1～3節の後縁に銀白色の毛帯をもつ。前伸腹節には背面と側面を仕切る隆起縁をもつ。メスの頭盾前縁には10本の刺状突起がある。オスの亜生殖板の後縁は3本の刺状突起をもつ。

土中に空けられた小形ホ乳類や大形アナバチ類の坑を利用し、そこから水平方向に坑道を掘り巣とし、餌としてヒシバツタ類を狩り、巣へ運び入れる。

日本産のものは、亜種 *L. n. japonica* Iwata, 1933とされる。

分布：本州、四国、九州、屋久島；朝鮮半島、中国、ロシア、インド。

タイワンコトガタバチ *Lyroda venusta* Bingham, 1897 [図7-3, 7-4, 7-7]

体長7～9.5mm。黒色。前伸腹節には背面と側面を仕切る隆起縁をもたない。メスの頭盾前縁には8本の刺状突起がある。オスの頭盾前縁の両側は短刺状に尖り、亜生殖板の後縁は中央で大きく凹み、その凹みの中央部に小さな突起がある。

日本では八重山諸島から得られており、亜種 *L. v. taiwana* Tsuneki, 1967とされる。

分布：八重山；台湾、フィリピン、インドネシア、ミャンマー。

ヒメアナバチ属 *Nitela*

スジヒメアナバチ *Nitela domestica* (F. Williams, 1928) [図7-11]

体長2.7mmの小形のハチ。体色は黒、脚付節は黄褐色。頭部は特徴的な形状を示す。つまり、額葉が発達し、額葉下縁から頭盾にかけて、中央部が高く、隆起して稜となり、中央の先端部は下方に突出する。側方から見ると、額葉は前方に大きく突出し、両側は深くくぼむ。単眼は二等辺三角形形状に並ぶ。頭部は網目状の表面彫刻をもち、胸部はより細かい網目状彫刻をもつ。前伸腹節は縦じわの強い網目状の表面彫刻をもつ。腹部は平滑で光沢がある。

台湾での観察では、直径2mm程の細い竹筒に造巣し、チャタテムシの幼虫を狩る（常木, 1969）。

分布：本州（長野県）；台湾、フィリピン。

オオグシヒメアナバチ *Nitela ohgushii* Tsuneki, 1956 [図5-7, 7-9]

体長4.4～4.6mm。体は黒色。単眼は二等辺三角形形状に配置する。頭部と中胸背板は微小点刻でおおわれる。前伸腹節は粗い網目状の彫刻をもつ。腹部は光沢を欠く。ヤスマツヒメアナバチよりも大形で、単眼の配置や腹部の光沢の有無で、容易に区別できる。

柱の上等を足早に歩行する行動が見られる。

分布：北海道、本州、九州。

ヤスマツヒメアナバチ *Nitela yasumatsui* Tsuneki, 1956 [図5-5, 5-6, 7-10]

体長3.0~3.7mmの小形種。体は黒色。単眼は正三角形に配置する。頭部と中胸背板はさめはだ状の微細彫刻となり、点刻を欠く。前伸腹節は微細な縦じわをもつ。腹部は光沢に富む。

柱の上等を足早に歩行する行動が見られる。台湾からは *N. y. taiwana* Tsuneki, 1982が記載されている。

分布：本州，九州；台湾。

種目録

Family Crabronidae ギングチバチ科

Subfamily Crabroninae ギングチバチ亜科

Tribe Larrini ケラトリバチ族

Larra (Cratolarra) carbonaria (F. Smith, 1858) クロケラトリバチ 北，本，四，九，対，琉；朝，台，フィリピン，マレーシア，インドネシア

Larra (Cratolarra) polita (F. Smith, 1858) ルソンケラトリバチ 八；台，フィリピン，マレーシア，ニューギニア，ハワイ（人為的移入）

Larra (Cratolarra) polita luzonensis Rohwer, 1919 ルソンケラトリバチ 八；台，フィリピン

Larra (Larra) amplipennis (F. Smith, 1873) アカオビケラトリバチ 本，四，九，琉；台，中，フィリピン，タイ

Liris albopilosus Tsuneki, 1967 キヌゲコオロギバチ 八（西表島）；台，フィリピン，タイ

Liris aurulentus (Fabricius, 1787) キンイロコオロギバチ 琉，火（硫黄島）；台，中，インドネシア，マレーシア，ニューギニア，インド，スリランカ，ハワイ，太平洋諸島

Liris deplanatus (Kohl, 1884) リュウキュウコオロギバチ 本，四，九，屋，琉；台，東南アジア

Liris deplanatus binghami Tsuneki, 1967 リュウキュウコオロギバチ本土琉球亜種・リュウキュウコオロギバチ 本，四，九，屋，琉；台，ボルネオ，インド

Liris difficilis Tsuneki, 1983 モモアカコオロギバチ 八；台，フィリピン，タイ，オーストラリア，ニューギニア，南太平洋諸島

Liris festinans (F. Smith, 1858) ヒメコオロギバチ 本，四，九，対，屋，琉，小；台，朝，中，フィリピン，タイ，オーストラリア，ニューギニア，ソロモン諸島

Liris festinans festinans (F. Smith, 1858) ヒメコオロギバチ琉球亜種・ミナミコオロギバチ 琉；台

Liris festinans japonicus (Kohl, 1884) ヒメコオロギバチ本土亜種・ヒメコオロギバチ 本，四，九，対，屋，小；朝，中

Liris iriomotensis Tsuneki, 1972 イリオモテコオロギバチ 八

Liris rohweri (F. Williams, 1928) タイワンコオロギバチ 沖，八；台，フィリピン

Liris rohweri formosanus Tsuneki, 1973 タイワンコオロギバチ琉球亜種・タイワンコオロギバチ 沖，八；台

- Liris subtessellatus* (F. Smith, 1856) ナミコオロギバチ 本, 四, 九, 対, 屋, 琉, 小; 台, 中, フィリピン, インドネシア, 北インド, イラク, アフガニスタン, ハワイ, 太平洋諸島
- Liris subtessellatus subtessellatus* (F. Smith, 1856) ナミコオロギバチ本土琉球亜種・ナミコオロギバチ 本, 四, 九, 対, 屋, 琉, 小; 台, 中, 東南アジア, 西アジア, 太平洋諸島
- Liris subtessellatus ogasawarae* Tsuneki, 1984 ナミコオロギバチ小笠原亜種・オガサワラコオロギバチ 小
- Liris surusumi* Tsuneki, 1966 スルスミコオロギバチ 八 (石垣島); 台, 中
- Tachytes fruticis* Tsuneki, 1964 ヒメハヤバチ 本, 四, 九, 対; 朝, 台
- Tachytes latifrons* Tsuneki, 1964 ヒロズハヤバチ 本, 四, 九; 朝 (?), ロシア
- Tachytes modestus* F. Smith, 1856 アカアシハヤバチ 本, 四, 九, 対, 屋, 八 (与那国島); 朝, 台, タイ, インド
- Tachytes etruscus* (Rossi, 1790) ニッポンハヤバチ 本, 九; 朝, 中, ロシア, 東アジアからヨーロッパにかけて広く分布
- Tachytes etruscus sibiricus* Gussakovskij, 1932 ニッポンハヤバチ本土亜種・ニッポンハヤバチ 本, 九; 朝, 極東ロシア
- Tachytes sinensis* F. Smith, 1856 オオハヤバチ 本, 四, 九, 対, 屋, 琉; 台, 朝, 中, タイ, インド
- Tachytes sinensis sinensis* F. Smith, 1856 オオハヤバチ本土亜種・オオハヤバチ 本, 四, 九, 対, 屋; 朝, 中, タイ, インド
- Tachytes sinensis yaeyamanus* Tsuneki, 1972 オオハヤバチ八重山亜種・ヤエヤマハヤバチ 八; 台
- Tachysphex changi* Tsuneki, 1967 チャンヌカダカバチ 八; 台, スリランカ
- Tachysphex nambui* Tsuneki, 1973 [Synonymy by Tsuneki, 1983.]
- Tachysphex formosanus* Tsuneki, 1971 タイワンヌカダカバチ 八; 台
- Tachysphex nigricolor* (Dalla Torre, 1897) ヤマトヌカダカバチ 北, 本, 四, 九, 対, 琉; 朝, 台, ロシア (沿海州, 千島)
- Tachysphex nigricolor nigricolor* (Dalla Torre, 1897) ヤマトヌカダカバチ本土亜種・ヤマトヌカダカバチ 北, 本, 四, 九, 対, 屋, 奄, 沖, 小; 朝, 台, ロシア (沿海州, 千島)
- Tachysphex nigricolor yaeyamanus* Tsuneki, 1971 ヤマトヌカダカバチ八重山亜種・ヤエヤマヌカダカバチ 宮, 八
- Tachysphex morosus* (F. Smith, 1858) チチジマヌカダカバチ 小; インドから台湾, フィリピン, 太平洋諸島, ハワイにかけて広く分布
- Tachysphex morosus titidzimaensis* Tsuneki, 1984 チチジマヌカダカバチ父島亜種・チチジマヌカダカバチ 小 (父島)
- Tribe Miscophini ヒメアナバチ族**
- Lyroda fukuiensis* Tsuneki, 1983 フクイコトガタバチ 本
- Lyroda nigra* (Cameron, 1904) ヤマトコトガタバチ 本, 四, 九, 屋; 朝, 中, ロシア, インド
- Lyroda nigra japonica* Iwata, 1933 ヤマトコトガタバチ本土亜種・ヤマトコトガタバチ 本, 四, 九, 屋; 朝, 中
- Lyroda venusta* Bingham, 1897 タイワンコトガタバチ 八; 台, 東南アジア
- Lyroda venusta taiwana* Tsuneki, 1967 タイワンコトガタバチ八重山亜種・タイワンコトガタバチ 八, 台

- Nitela domestica* (F. Williams, 1928) スジヒメアナバチ 本 (長野県); 台, フィリピン
Nitela ohgushii Tsuneki, 1956 オオグシヒメアナバチ 北, 本, 九
Nitela yasumatsui Tsuneki, 1956 ヤスマツヒメアナバチ 本, 九; 台
Nitela yasumatsui yasumatsui Tsuneki, 1956 ヤスマツヒメアナバチ 本, 九

謝 辞

本稿の閲読をお引き受け下さり、貴重なご助言を賜った田埜 正氏、高橋秀男氏に感謝の意を表します。また、南部敏明氏からは多くの貴重な標本の御貸与を賜りました。重ねて御礼申し上げます。

参 考 文 献

- 羽田義任, 1959. 観察日記から. 福井生物研究会会誌, (8) : 7-8.
 羽田義任, 1961. ヒメコオロギバチ (*Motes japonicus* Kohl) の観察ノート. 生物研究 (福井) 5(1-2) : 6-11.
 Hashimoto, Y. & A. Nakanishi, 1997. A list of the type-specimens of Hymenoptera described by K. Tsuneki in the Museum of Nature and Human Activities, Hyogo (MNHAH). Cat. Coll. Mus. Nat. Human Activities, Hyogo, No. 2, 47pp.+ 8pls.
 飯田忠嗣, 1971. キンイロコオロギバチの終令幼虫の記載. 生物研究 (福井), 15 : 26-27.
 Iwata, K., 1933. A new species of *Lyroda* from Japan (Hymenoptera, Larridae). Annot. Zool. Japan, 14 : 7-9.
 岩田久二雄, 1938. 尖穴蜂類の習性. 昆虫, 12(1) : 1-13.
 岩田久二雄, 1971. 本能の進化 蜂の比較習性学的研究. 真野書店, 503 pp.
 Iwata, K. & M. Tanihata, 1963. Biological observations on *Larra amplipennis* (Smith) in Kagawa, Japan. Trans. Shikoku Ent. Soc., 7(4) : 101-105.
 Menke, A. S. & R. M. Bohart, 1979. Sphecid wasps of the world : Errors and omissions (Hymenoptera : Sphechidae). Proc. Ent. Soc. Wash., 81 : 111-117.
 内藤親彦, 1963. ヒメコオロギバチの狩猟に関する2, 3の知見. Kontyu, 31(3) : 193.
 南部敏明, 1970. アカオビケラトリバチ (*Larra amplipennis*) の習性. 生物研究, 14 : 1-8.
 奥村忠男, 1971. キンイロコオロギバチおよびリュウキュウコオロギバチの造巢習性. 生物研究 (福井), 15 : 22-26.
 奥野 宏, 1961. ケラ狩りのラルラ (*Larra*). 生物研究, 5(1-2) : 11-14.
 O'Neill K. M., 2001. Solitary wasps. Behavior and natural history. Cornell University Press, 406 pp.
 寺山 守, 2004. 硫黄島で得られた有剣ハチ類. つねきばち, 2 : 1-5.
 常木勝次, 1959. ヒメコオロギバチについて. 福井生物研究会会誌, 8 : 8-9.
 常木勝次, 1964. 蜂類研究手引 (21) (9)ケラトリバチ亜科 (Larrinae). 生物研究 (福井), 8 : 61-63.
 常木勝次, 1964. 日本産コオロギバチ (*Liris*) およびケラトリバチ (*Larra*) の学名について. Kontyu, 32 : 214-222.
 常木勝次, 1968. 数種アナバチ科学名ニュース. 生物研究 (福井), 12 : 14.
 常木勝次, 1969. NITELA (RHINONITELA) (ケラトリバチ亜科) 日本に産す. 生物研究 (福井), 13 : 97-99.

- Tsuneki, K., 1956. Two new species of the genus *Nitela* in Japan (Hymen., Sphecidae, Larrinae). *Akitu*, 5 : 33-35.
- Tsuneki, K., 1966. Contribution to the knowledge of the Larrinae fauna of Formosa and the Ryukyus (Hymenoptera, Sphecidae). *Etizenia*, 17 : 1-15.
- Tsuneki, K., 1967. Studies on the Formosan Sphecidae (I). The Subfamily Larrinae (Hymenoptera). *Etizenia*, 20 : 1-60.
- Tsuneki, K., 1973a. Taxonomic notes on two species of Sphecidae (Hym.). *Life Study*, 17 : 113.
- Tsuneki, K., 1973b. New and the first recorded species and subspecies of Sphecidae and Mutillidae from Japan, with taxonomic notes on some species (Hymenoptera). *Etizenia*, 65 : 1-28.
- Tsuneki, K., 1974. A contribution to the knowledge of Sphecidae occurring in Southeast Asia (Hym.). *Polsk. Pism. Ent.*, 44 : 585-660.
- Tsuneki, K., 1983a. Further studies on the Larrinae of the Philippines (Hym., Sphecidae), with remarks on the Indian species of the genus *Lyroda*. *SPJHA*, 24 : 1-116.
- Tsuneki, K., 1983b. Revision of the type specimens of three species of *Liris* described by Frederick Smith. *SPJHA*, 25 : 25 : 1-5.
- Tsuneki, K., 1984. Solitary wasps newly collected in the Ogasawara or the Bonin Islands (Hymenoptera). *SPJHA*, 28 : 1-11.
- Tsuneki, K., 1993. Revision of the holotype of *Odontolarra* (= *Lyroda*) *nigra* Cameron, with remarks on its subspecies and description of a closely related new species from Japan (Hymenoptera, Sphecidae). *SPJHA*, 25 : 57-62.
- 山根正気, 1999. ケラトリバチ亜科. 南西諸島産有剣ハチ・アリ類検索図説 (山根正気・幾留秀一・寺山 守共著). 北海道大学図書刊行会, 531-537.
- 山根正気・幾留秀一・寺山 守, 1999. 南西諸島産有剣ハチ・アリ類検索図説. 北海道大学図書刊行会, 831 pp., 24 plates.